

市民意見募集手続の結果について

- 1 計画等の案の名称 上田市小中学校のあり方に関する基本方針（案）
- 2 募集期間 令和2年12月16日（水曜日）から令和3年1月15日（金曜日）まで

3 実施結果

（1）件数 96件（23人）

（2）提出方法

持参	郵便	電子メール	ファクシミリ	計
6件（1人）	4件（2人）	66件（14人）	20件（6人）	96件（23人）

4 意見に対する検討委員会の考え方

※「検討委員会の考え方」の下線部分が意見を踏まえて基本方針を修正した箇所です。

※類似の意見はまとめて回答しているため、提出件数と一致していません。

（1）目指す子ども像（基本方針7～8ページ）

N0	意見	検討委員会の考え方
1	P7の② 自己肯定感、他者の大切さを認める感謝や思いやりの気持ち 「新たな課題に挑み、解決していくには、多様な経験を通して、失敗を恐れず、あきらめずに物事に取り組むことを学び、自己肯定感を高める必要があります。・・・」とあります。「自己肯定感を高める」の前に、「時には、弱音を吐くことも認めながら」という言葉を入れてほしいです。 理由：長野県は全国的にも10代の自殺率が高く、上田市も例外ではありません。弱音を吐かず、頑張れ頑張れだけでは、自己肯定感を高めるどころか、他者と比べ劣等感を助長するだけと考えます。	10代の自殺率の高さを心配されて、「時には、弱音を吐くことも認めながら」という表現の追加について御提案をいただきました。 子どもたちがさまざまな経験を通して感じるそれぞれの思いを、ありのまま表せることはとても大切だと考えます。 弱音を吐くことも含める意味で、次のように修正します。 「新たな課題に挑み、解決していくには、多様な経験を通して、失敗を恐れず、あきらめずに物事に取り組むことが大切です。そして、成功や失敗を重ねる中で感じたありのままの自分の考えや存在を大切にし、自己肯定感を高める必要があります。」 （下線：基本方針の修正箇所）
2	GIGA スクール構想は国の施策なのでふれないわけにはいきませんが情報活用が目的化し、かかっている①～④⑥の内容を薄めてしまう可能性があります。方針案には「目的でなく手段である」となっていますが、1人1台となれば、	GIGA スクール構想により、上田市でも令和3年度から小中学校の児童生徒に1人1台の端末が配備されるという大きな変化があることから、⑤を設け、「目的ではなく、手段であること」について言及しました。

N0	意見	検討委員会の考え方
	授業の中で主な活用にならないか心配です。基礎的、総合的学力をつけた上で、手段として活用することを徹底させることが肝要だと思います。	現在、教育委員会では、情報端末の導入に向けて、学校と活用方法について研究を重ねているとのことです。これからの時代を生きる子どもたちが情報スキルを身に付けることは不可欠ですが、導入後、子どもたちにとって充実した学習に資するような活用に期待したいと考えます。
3	8 ページ 1 人 1 台端末の環境を生かして 1 人 1 台となると授業の中で活用が進むと思われるが、「目的でなく手段」になるのか疑問である。	
4	グローバル化とふるさとという言葉に矛盾を感じます。また、人材の表現に違和感があります。	7 ページの現代の日本や世界のグローバル化などが進展しているとの部分は、現在の一般的な状況を述べたものであります。
5	7 ページに世界に目を向ければ、グローバル化・・・と財界が求める人材育成と同じ観点を書いているが、上田に戻ってきてほしいという基本方針のねらいと矛盾するのではないか。	「④ふるさとへの誇り、愛着心」について 今後の人口減少の見込みを鑑みても、これからの上田市を支える人材の育成はますます重要です。進学等で一旦上田を離れても、ふるさとの魅力を知っておくことが、上田に戻るきっかけになるのではないか、そのためにもふるさとへの愛着心を育むことは大切だと考えます。 一方で、検討委員会では、子どもたちが上田市を離れて生活し、広い世界で活躍することを願う意見も出され、そうした子どもたちを応援したいという認識も共有されました。そのような場合でも、ふるさと上田に誇り、愛着を持ち、何かしらの関わりを持とうとする、ふるさとの発展に貢献したいという子どもたちを育成することが、これからの上田市にとって大切であるとの考えをまとめたものであります。
6	『⑥ 夢や希望を持つこと、自立する力』などにもあるように、全ての子どもが夢や希望を持ち、それぞれの個性を伸ばしながら成長していくことが目指す子ども像であるならば、『4.横の連携③ 企業と連携したキャリア教育』のなかには書かれている、地域を担う人材の育成が目的になるのは、矛盾しているように感じました。	検討委員会では、子どもたちに身に付けてほしい力を、①から⑥に掲げる項目にまとめました。特に⑥は、小中学校での学びを通して、さまざまな力を培い、最終的には全ての子どもが夢や希望を持ち、それぞれの個性を伸ばしながら成長してほしいとの願いをまとめたものであります。 12 ページの「4 横の連携」では、学校と地域の連携した活動について、さらなる推進のために必要な視点をまとめたものであります。

N0	意見	検討委員会の考え方
		す。 学校では、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てることを目的にキャリア教育に取り組んでいます。子どもたちが夢を描き、自ら学ぶ意欲を持つきっかけにもなっており、上田市がキャリア教育として行っている職場体験は、子どもたちが地域を知る貴重な機会にもなっています。 この職場体験は、地元の企業や事業所の理解、協力がなければ成り立たない事業でもあり、こうした学校と企業等との連携はこれからも推進していくべきであると考え、③としてまとめたものであります。 基本方針の③の記載について、キャリア教育が「地域を担う人材の育成が目的」になると感じられるとの御意見をいただきましたので、キャリア教育の目的を追記し、次のように横の連携に着目した内容に修正します。 「③ 企業と連携したキャリア教育 <u>学校では、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てることを目的にキャリア教育に取り組んでいます。特に職場体験は、地元の企業や事業所の協力があって成り立つ事業ですので、学校と企業等の連携が重要であります。地域全体でキャリア教育を支援・推進していく必要があります。」</u> (下線：基本方針の修正箇所)

(2) 上田市としての特色ある教育（基本方針 9 ページ）

N0	意見	検討委員会の考え方
1	是非、『教育先進都市』ともいえるような「上田市として」の一步踏み出した特色ある教育を加えていただきたいと思います。	「目指す子ども像」の実現に向けた教育活動として、地域を題材とした学習や、地場産業や地域で盛んな農業などの本物に触れる体験を通して、地域に受け継がれてきた自然、文化、歴史、産業などを学び、また地域資源としての大学など市内に複数ある高等教育機関と連携した活動を発展させていくことが、上田市ならではの特色ある教育となると考え、基本方針にまとめました。

N0	意見	検討委員会の考え方
2	上田市としての特色ある教育とうたいながら、学習指導要領に規定されると範囲を限定していることは大きな矛盾である。	学習指導要領は、学校における教育水準を全国的に確保するため、各学校が編成する教育課程の基準を大綱的に定めたものです。上田市の小中学校では、学習指導要領を踏まえつつ、学校ごとに創意工夫を重ね、教育活動のさらなる充実を図っていると考えます。

(3) 縦の連携（基本方針 10～11 ページ）

N0	意見	検討委員会の考え方
1	菅平小中学校のように、小規模の小中学校については、老朽化した校舎の建て替えとあり方も考え、「・・・近々に上田市で この制度を採用するとの認識は共有されませんでした、・・・」とありますが、小中一貫教育に適した学校施設の整備及び体制整備を進めてほしいことをお願いします。	義務教育学校は、全国的にも導入している学校が増えている状況ですが、教育的な効果等を踏まえ各学校設置者が創設、導入を判断したものと受け止めています。 基本方針にもあるとおり、義務教育学校は、児童生徒の異学年交流や小中の垣根のない乗り入れ授業、中1ギャップの解消などのメリットがあるとされていますが、上田市では、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す小中連携事業の取組が定着していることもあり、近々に導入することが望ましいという結論には至りませんでした。
2	義務教育学校（小中一貫校）を宣伝していますが、統廃合の一つの手段として使われた地域もあるので、とても危険だと思います。	ただし、検討委員会といたしましては、新しい学校のあり方として、今後も先行事例の状況や教育的な効果について研究することを教育委員会に求めたものであります。
3	義務教育学校を採用する認識は共有されなかったとのこと、同感です。一方で「上田市での導入について研究していくことを望みます。」とあるのは矛盾していると思います。また、メリットだけでなく、デメリットについても明らかにしてほしいと思います。	
4	スタートカリキュラム、小中連携事業、進学期の移行支援については、内容については評価できるところもあると思いますが、これらが現在、現場の多忙化に拍車をかけていることも明らかなです。よい取り組みをするには、それだけの余裕が現場に必要です。対応できるように教職員を増やすことや、これらを行う代わりに削減することも考えなければ現場の教職員に更なる負担がいくことになります。	学校教育においては、子どもたちが生きる力を育むために、一人ひとりの子どもの育ちや学びを連続したものととらえ、関係者が課題を共有しながら教育の環境を整えていくことが重要と考えます。 「教職員の人数の増や負担軽減が必要」との御意見をいただきましたように、教職員の多忙化は上田市でも課題となっており、現在、教育委員会では、「学校における働き方改革推進のための基本方針」に基づき、教職員の負担軽減に向けた取組を進めているとのことでもあります。

N0	意見	検討委員会の考え方
		このような取組を着実に行うことで、教職員が日々、子どもたちにしっかりと向き合う時間を確保し、切れ目のない教育環境の実現に努めてほしいと考えます。

(4) 横の連携（基本方針 12 ページ）

N0	意見	検討委員会の考え方
1	「横の連携」については、家庭との連携をしっかりと組み込んでいただきたいと考えます。家庭（一般市民）についてはなかなか踏み込みにくい部分であるとは思いますが、家庭への協力を呼び掛けるものであったり、「お父さん、お母さん教室」のような親の成長を支援するような取り組みを謳うなど、市民の意識変容につながるような工夫していただきたいと考えます。	御意見のとおり、子どもたちの健やかな成長を支えるために、家庭が教育の場として十分機能を発揮することが大切です。 引き続き、学校と家庭、地域の連携・協働を推進し、子どもたちの豊かな成長を支える取組を充実させてほしいと考えます。
2	学校・家庭・地域の「こんな子どもに育ってほしい」という思いをもとにするのは、成長の主体である子どもの思いに添えないものになると思います。子ども一人一人の思いを支える連携であってほしいです。	御意見のとおり、成長の主体であるのは子どもたちです。学校・家庭・地域が子どもたちへの思いを共有しながら、年齢や考え方が異なる子どもたち一人ひとりの思いを大切にし、寄り添う連携ができるような取組が大切であると考えます。

(5) 学びの環境

① 望ましい学校規模（基本方針 13～14 ページ）

N0	意見	検討委員会の考え方
1	基本方針（案）で示された「めざす子ども像」の①～⑥及び「上田市としての特色ある教育」の①から③は、基本的に学校規模によるものではなく、すべて小規模校で可能です。かえって小規模校であるからこそ可能な面もあるように思います。したがって、「学校での一定規模の集団生活を通して・・・」と、あえてするよりも、基本方針（案）でふれているように小規模校のデメリットを補い、各校の工夫を応援し、支援する教育条件を整えることこそが、市、教育委員会、地域社会に今後求められていることと思います。小・中学校の再編の提起は、財政的な面からの要請ととられても仕方ありません。	望ましい学校規模について、小規模校のメリットに注目したさまざまな御意見をいただきました。 基本方針にもあるとおり、小規模校には、「児童・生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。」などのメリットがあります。 一方、デメリットとされる部分には、子ども同士で学びあう環境の創出など、教職員や保護者、地域の方の創意工夫によっても解消することが難しい面もあると考えます。 検討委員会では、子どもたちにとって、学校における集団生活を通して、多様な考え方や個性を持つ仲間と学びを深め、ときには切

N0	意見	検討委員会の考え方
2	学校規模や学級規模については、上田市を十把ひとからげにして人数や学級数を謳うのではなく、地域ごとの歴史や特色などを踏まえた教育の多様性を尊重すべきです。	磋琢磨し、豊かな人間性を育むことが重要であると考え、一定の学校規模が必要と考えました。 また、一定の学校規模であれば、専科教員が配置されるなど、小規模校よりも、校務や行事の分担を適切に行うことができ、教員が子どもと向き合う時間をより多く生み出すこともできると考えられます。
3	学校の小規模化の対応では統廃合に向かっていくのでは…上田市の特色ある教育を目指すならば各地域らしい小規模校が理想であって、一昨年の台風でも避難所になり一層地域の学校の大切さを教えられたのではないのでしょうか。	小・中学校の再編の提起は、財政的な面からの要請ではないかとの御意見もいただきましたが、検討委員会では、ソフト・ハードの両面から上田市の未来の子どもたちにとって真に望ましい教育環境とは何かという視点に立って、検討を重ねてきたものであります。
4	1 学年 1 学級（小規模校）のデメリットが強調されていますが、本当にそうであるのか。メリットをもっと重視して欲しいです。	また、検討委員会としても小規模校はデメリットばかりということではなく、コロナ禍の分散登校において普段登校できない生徒が登校することができたという事例をはじめ小規模校のメリットについても十分理解をしながら検討を進めたものであります。
5	小規模校のメリット、デメリットについて触れているがデメリットに力点が置かれている感じがする。双方をもっと幅広く掘り下げた検討が必要。	今般、今後の上田市の小中学校のあり方として、望ましい学校規模・学級規模の目安をお示しましたが、これからの未来を生きる子どもたちがどのような力を育むことが必要なのかを皆で共有し、教育の場としての学校をよりよいものにしていく視点に立って地域での検討をしていただきたいと思います。
6	自分のふるさとに誇りと愛着を持つ子どもを育てたいなら、小規模校であっても地域にある学校で教育することの方が有効だと考える。	
7	学年 1 学級（小規模校）のデメリットが強調されているが、はたしてそうか。40 人学級や専科教員の配置基準など今の制度を前提にしている議論でいいのか。	
8	「小規模校のデメリット」とされている部分は、あくまで今の教育条件・教育制度のもとであるからだと思います。たとえば「中学校の各教科の免許をもつ教員を配置しにくい。」「一人に複数の校務分掌が集中しやすい。」とありますが、これは上田市独自で教職員の数を増やすことで解決します。「部活動」についても社会体育に力を入れて、学校からの移行にとりくんでいただければ解決します。上田市独自の教育条件・教育制度の充実を望みます。 さらに「小規模校のデメリット」だけでなく、「大規模校のデメリット」についても明らかに	

N0	意見	検討委員会の考え方
	していただきたいです。コロナ禍の分散登校で、不登校だった子どもたちから、このくらいの人 数だったら学校に行ける、という声が聞かれた そうです。	

② 望ましい学級規模（基本方針 14 ページ）

N0	意見	検討委員会の考え方
1	「すくなくとも 20 人程度」とあるが、私が P T A 役員として、またコミュニティスクール 会員として関わった経験から、学級の人数が 20 人を割ってからの学習成果がきわめて高い。ま た、校長講話で長期欠席の児童が一人もいない と胸を張って報告されたことが思い出される。 あまり人数が少ないと人間関係が作りづらく なることも分かった。ただ、全体通して感ぜら れることは、個々の児童の発達よりも集団とし ての成長を考えておられることである。個人の 成長を目指した教育を目指していただきたい。	少人数学級には、学校行事等において児童・ 生徒一人ひとりに活動の場を与えやすい、一 人ひとりの児童生徒にきめ細かな指導を行い やすいというメリットがあります。一方で、集 団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び あいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなり やすい、人間関係の固定化や学級の男女比の 偏りが生じやすいなどのデメリットもありま す。 検討委員会では、子どもたちにとって、学校 における集団生活を通して、多様な考え方や 個性を持つ仲間と学びを深め、ときには切磋 琢磨し、豊かな人間性を育むことが重要であ り、児童生徒が一定程度在籍している学級規 模が望ましいと考えました。
2	そのため（子どもたちが問題解決能力を身に 付けるためには）には、学級が大切な実践の場 となります。先生が毎日、教室の中で身体を通 して子ども達を十分に観察できることが必須 です。そのために 1 学級の生徒数を減らす必要 があります。40 人学級を 30 人にすることを明 記してください。上田市会で「30 人以下学級へ の陳情」否決されたことは残念でなりません。 学級・学校で一人一人の子ども達が「主人公」 になってこそ、自己肯定感も獲得できるでしょ う。自己肯定感を持ててこそ、その他の価値も 見えてくるのではないのでしょうか。	今般、今後の上田市の小中学校のあり方と して、望ましい学校規模・学級規模の目安をお 示ししましたが、これからの未来を生きる子 どもたちがどのような力を育むことが必要な のかを皆で共有し、教育の場としての学校を よりよいものにしていく視点に立って地域で の検討をしていただきたいと考えます。
3	小規模校の課題より 1 学級に 40 人の規模 （長野県 35 人）の弊害が大きい。1 学級の人 数こそ国の動向とあわせて検討すべき。	
4	学年で 1 学級編成の場合でも少なくとも 2 0 人程度確保できることが望ましい。これは、 文科省が財政的な観点から示した基準と同じ	

N0	意見	検討委員会の考え方
	だが、果たしてそれが良いのでしょうか。13ページで示された小規模校のメリットこそが、世界的なスタンダードであり、とりわけ初等教育においては小規模校こそが望ましいとされています。	
5	互いの見方や関わり方を見つめ直し人間関係を広げるために「複数の学級」がある規模である必要性、その理由と根拠がいまいちわかりませんでした。 少人数学級であれば、関わりが密になることで真の人間関係を深め築くことができ、それが結果、人間関係を広げるもとになると思います。 また専門性の高い授業が可能であれば、なおのこと少人数学級が望ましく、全校で統一した指導を進めるためには、むしろ複数の学級であるほうが難しいと思います。	

③ 適正配置（基本方針 14 ページ）

N0	意見	検討委員会の考え方
1	配置についても、小学校 4 km、中学校 6 km の片道通学は近年の猛暑や急な気候変動等を考えるとリスクが大きすぎます。	学校の適正配置に示した基準は、国の考え方に沿ったものでありますが、基本方針 14 ページ (3) ③に示したように、基準を超える場合には、児童生徒の身体的負担にも配慮することが必要だと考えます。 御意見のとおり、通学上の安全確保や登下校時の熱中症への配慮は大変重要な課題だと考えます。こうした通学時の安全対策については、学校、家庭、地域の皆さんとともに検討し、教育委員会で対策を講じてほしいと考えます。 また、地域の方に来校していただきやすい環境作りは大切だと考えますが、学校の適正配置については、児童生徒の適切な通学条件や通学手段の確保という視点で教育委員会において検討されるものと考えます。
2	学校運営に参画していただける皆さまが、移動手段として徒歩を選択できるような学校の配置が、地域コミュニティとの横の連携は取りやすくなると思いますので、ご検討いただきますようお願いいたします。	

④ 望ましい学校規模を確保するための方策

ア 学校の再編（基本方針 15 ページ）

N0	意見	検討委員会の考え方
1	学校の再編となっているが、小さな学校でも地域に根付いたものとなっているはず、災害がおきた時の避難所としても使えると思います。 もっと地域住民や学校関係者、子ども、保護者からの聞き取りなどを徹底して行ってから方針を決めるべきではないでしょうか。	学校は児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、災害時の指定避難所としての役割などさまざまな機能を併せ持っていますが、検討委員会では上田市の未来の子どもたちにとって真に望ましい教育環境とは何かという視点に立って検討を重ね、基本方針を策定したものであります。
2	学校再編はもっと議論が必要だと思えます。財政面だけを見ている気がして本末転倒にならないかと不安です。	仮に、学校の再編をした場合に使用しなくなる校舎の活用や地域の防災拠点については、全市的な視点で検討されるべきと考えます。 今後は、地域ごとに教育委員会が説明会等を実施していくとのことであります。検討委員会としましても、地域ごとの具体的な学校のあり方については地域にとって大きな影響を及ぼすことから、教育委員会が保護者や地域の皆さんと十分協議をすることが必要だと考え、基本方針にも、その旨を述べたところです。

イ 小規模特認校制度（基本方針 15 ページ）

N0	意見	検討委員会の考え方
1	検討委員会では、学校間での児童の取り合いや特色ある教育活動の提供などの課題があるため、小規模特認校制度の評価は高くありません。市内では登校困難児童が増加しており、児童一人一人の教育に目が行き届く学校が必要となっています。市内どこからでも通学できる小規模特認校の役割と市民要望は大きいと、小規模特認校制度の再評価をお願いします。	検討委員会では、少子化により上田市内の多くの小学校が今後、小規模化する状況から見ても、一部の学校に他地区から児童生徒が通うことを認める小規模特認校制度の導入は、他の学校に与える影響が大きいため、慎重に判断すべきと考えたところであります。
2	「導入する場合は、…」以下の文章については、学校と十分な協議をするのは誰なのかわかりにくいです。教育委員会と導入する学校との協議により、小規模特認校制度が認められると解釈してよいのでしょうか。	検討委員会でも小規模特認校制度の導入を希望する地域があるとの報告もありました。また、今回のパブリックコメントでも導入を望む御意見や導入に反対の御意見、また全市的な導入を望む御意見などさまざまな御意見が寄せられているところですので、今後は、教育委員会において、小規模特認校制度を導入する場合の課題等を整理し、学校、保護者、地域の方とも十分協議をし、検討することを求めます。
3	小規模特任校制度を大人が親が考えるときに来ているとおもいます。	また、小規模特認校制度を導入し、不登校や

N0	意見	検討委員会の考え方
4	小規模特認校申請がなされた地域また資料から廃校について議論されるであろう地域は人口減少が著しい地域である。 文部科学省は学校を核としての地域経営を提案している。この観点から、小規模特認校認定を拒否した時点で、上田市として、人口減少に悩む地域の将来の学校の在り方について、統合以外の検討はしていない。	集団への不適応を起こしている児童生徒を受け入れてはどうかとの御提案もありました。このような児童生徒への対応は、非常に丁寧な取組が必要であり、受け入れる学校での教育活動にも一定の影響を伴うことが考えられます。教育委員会でもさまざまな不登校対策を講じていますが、小規模特認校にその役割の一端を担わせることについては慎重に検討をすることを求めます。
5	上田市内にどれだけの不登校児童がいるかは私は知り得ませんが、何らかの理由で不登校となってしまった子供たちの教育はどう進んでいくのでしょうか。そういった子供たちの受け皿となる学校も必要ではないかと考えます。 小規模特認校制度について 15 ページにあります。検討委員会においては一部の学校に転入を認めることは他の学校の児童数の減少に結びつくため慎重な意見があったようですが、上記のような議論はされたのでしょうか。小規模の学校だからこそ、子供一人ひとりに目が届きやすい。	不登校の児童生徒に対しては、児童生徒本人や保護者はもとより、教職員に対しても支援が必要と考えます。県をはじめとする関係機関との連携や教育委員会における取組が充実し、関係者に対して必要な支援や情報提供が行われることで、それぞれの児童生徒に適した支援が実現することを願います。
6	小規模特認校についてはいろいろな課題もあるかと思いますが、逆に今の時代に合っているのかもしれませんが。問題がある子、不登校の子ばかりが集まるのではないかと。確かに難しい取組かとは感じますが、これからの時代はそういった子の受け入れ先になるような学校も必要なのではないかと感じています。 確かに小規模校は子ども同士のつながりは薄くなりがちではありますが、横だけではなく、縦のつながり、地域とのつながりと、意外と密なつながりが出来ていて、それも、地域の方が歩いて来られる距離にある学校ということで成り立っています。今後の児童数の推移でこれを手放すのはちょっともったいないと感じました。	
7	通学区を定めない小規模校を小学校2～3校、中学校1～2校作る。 最近では学校内でも少人数で対応して欲しく	

N0	意見	検討委員会の考え方
	て、あえて支援学級を希望する保護者も増えているようです。1 学年 1 学級といった学校をあえて作り、多様なニーズに応えていくのはいかがでしょう。方針案では小規模校のデメリットが提示されていますが、私が見ている中では小規模校の子どもの方が積極性や主体性が感じられ、専科教員がいないとか教科担当教員が複数いないからといって生徒の学力が落ちているとは思いません。また、小規模校の方が地域住民との連携が深いようにも思います。	
8	上田市の将来のために小規模校全校を特認校に！！ それぞれの特認校が頑張り市内全域から子ども達を集めれば、結果として新たな小規模校を生む、そのあらたな小規模校も特認校にすれば・・・。 やがては極端な混乱を生むことなく、全市に学校選択制を導入可能となる。そして、その先に教員選択制度の採用も見えてくる。教職員の間にも「切磋琢磨」が定着し全市の教育環境は格段に高くなる。	
9	導入に慎重な意見があったとのこと、その通りだと思います。子どもたちを育む地域が崩壊します。導入に反対します。	

ウ 留意すべき点（基本方針 15 ページ）

N0	意見	検討委員会の考え方
1	市は今後、この基本方針を受けて統廃合が考えられる地域に対して基本方針の説明を行う予定です。この場合でも、この方針に強制的に従うようなことはせず、地域の意見によく耳を傾けるよう配慮がなされると記載されております。 浦里小学校の児童数の減少は、仁古田と岡自治会が川西小学校へ通学区を変更したことが大きな要因であり、古くは川西村が上田市に合併した時の合併条件に市が違反したことが、根本的な要因であります。浦里小学校の場合でも、過去の経過を十分踏まえていただ	基本方針に示したとおり、今後、教育委員会が地域ごとに説明の場を設けるとのことです。その上で、望ましい学校規模を確保する方策を実施する場合には、関係者と丁寧な懇談等の機会を持ち、学校のあり方について検討を進めてほしいと考えます。 また、地域の方、とりわけ子育て世代の皆さんの意見を尊重し、これから子どもたちの教育の場としての学校について十分な検討がなされることを希望します。

N0	意見	検討委員会の考え方
	き、地域の意見を十分汲み取りいただくようお願いいたします。 ここで述べられているご意見は全面的に同意・支持できます。このことをもっと前面に出した方針にしていきたい。	
2	基本方針(案)への記載追加について 「地域振興の拠点施設の役割」の記載追加について 地域の小学校は、子供の教育の場だけでなく、地域力の維持と継続的な発展に必要な不可欠な公共施設であり、地域住民の活動の拠り所でもあります。基本方針においては、地域振興の拠点施設としての小学校の役割も十分検討し、記載していただきますよう強く要望いたします。	小学校は地域力の維持と継続的な発展に必要な不可欠な公共施設であり、地域振興の拠点としての学校の位置づけを基本方針に盛り込むようにとの御意見ですが、この基本方針は、上田市の未来の子どもたちにとって真に望ましい教育環境とは何かという視点に立って、策定したものであります。 学校は、どの地域にとっても大切な存在ではありますが、学校を支えてきた地域の歴史や思いを尊重しつつも、子どもたちが多くの時間を過ごす教育の場としての学校をより良いものにしていくことが重要であると考えます。
3	P15 (5) 留意すべきことは重要と考えます。	基本方針に示したとおり、今後、教育委員会が地域ごとに説明の場を設けるとのことです。
4	留意点には、行政が一方的に進めるのではなく、保護者、地域住民とも十分に課題、ビジョンを共有し理解を得ながら進めていくことが重要と書いてある。その通りだと考える。更に、小規模校として存続しながら望ましい教育環境を確保するための手段や地域住民からの様々な提案があることが考えられるとも書いてある。私も賛成だ。保護者や地域住民からしっかり意見を聞き時間をかけて検討していただきたい。基本方針を策定したからその通り進めるのではなく、今後もそのことに留意して進めていただきたい。	その上で、望ましい学校規模を確保する方策を実施する場合には、関係者と丁寧な懇談等の機会を持ち、学校のあり方について検討を進めてほしいと考えます。 また、地域の方、とりわけ子育て世代の皆さんの意見を尊重し、これから子どもたちの教育の場としての学校について十分な検討がなされることを希望します。
5	「行政が一方的に進めるのではなく、」という姿勢はこれからも堅持してほしい。	

エ 学校施設（基本方針 16 ページ）

N0	意見	検討委員会の考え方
1	校舎の老朽化の課題はとても重要ですが、聞いた所によると上田市は他の市町村と比べて教育予算がかなり少なかったと…ふるさとやじぶんの暮らす地域の発展に貢献したいと志す人材の育成を期待するならば、もっと子どもたちに教育予算をと思います。	平成 30 年 3 月の上田市小中学校のあり方研究懇話会の提言書では、ソフト・ハードの両面から「小中学校のあり方」を検討するよう求められています。検討委員会では、「目指す子ども像」実現に向けたソフト面に時間をかけて議論を重ねるとともに、ハード面の議論として、学校施設の状況、財政負担等についても検討をしました。
2	16 ページ校舎の老朽化は最優先課題と書いてあることは良いが、そもそも上田市が他の市町村と比べて校舎の新築をはじめ教育予算が極めて少なかったことの分析をすべきである。なぜ、教育にお金をかけない市政が続いてしまったかしっかり総括する必要がある。	これまで、教育委員会では、児童生徒の学習環境を確保するために必要な施設営繕を行うとともに、学校施設の耐震化、エアコン整備などを積極的に進めてきたと評価しています。
3	老朽化した校舎をそのままにしてきた実態は明らかにされましたが、財政面の苦しさが前面に出た基本方針で、これでいいのでしょうか。将来にわたり市民に負担をかけてでも、校舎の改築が必要なのではないのでしょうか。子どもを第一に改築計画を大胆に提起してほしい。通常の建物では信じられないくらい老朽化が進んだ学校が多数あります。地域の皆さんは「学校のためなら」という思いでいます。	しかしながら、昭和 40 年代・50 年代に建設された多くの学校施設において、将来の改築需要の増加が見込まれており、今後の施設の維持・更新は大きな課題であることを検討委員会でも認識を共有しました。 今後も、子どもたちの安全・安心な学習環境を確保するために、適切な維持管理を行うとともに、計画的な施設の改修・改築に取り組んでほしいと考えます。

(6) その他

N0	意見	検討委員会の考え方
1	P5 の中学校のところに、依田窪南部中学校が入っていないのはなぜですか。長和町との組合立だからですか。組合立でも約半数の生徒は、上田市に住所がある生徒ですから、入れていただきたいです。	<u>基本方針 5 ページに依田窪南部中学校を追加し、上田市長和町中学校組合立である旨を記載しました。</u> (下線：基本方針の修正箇所)
2	基本的には地域の学校存続という立場に立ち、今後のあり方を議論していくべきと考えます。今後のスケジュールとして提言書には、「H32 以降中学校区別検討委の設置」とありますが、さらに慎重な検討をし、拙速に進めることのない様に望みます。	基本方針に示したとおり、今後、教育委員会が地域ごとに説明の場を設けるとのことです。その上で、望ましい学校規模を確保する方策を実施する場合には、関係者と丁寧な懇談等の機会を持ち、学校のあり方について検討を進めてほしいと考えます。

N0	意見	検討委員会の考え方
3	どの様な観点をもって「適正規模」とするのか、保護者・地域・児童・生徒をも含めた幅広い議論が必要であり、線引きのようなことは教育にはなじみません。	また、地域の方、とりわけ子育て世代の皆さんの意見を尊重し、これから子どもたちの教育の場としての学校について十分な検討がなされることを希望します。
4	「何人以下だから、何学級以下だから、望ましくない」という「適正規模」が独り歩きしないよう検討をお願いします。	
5	学校の先生方、保護者などの意見や実態を聞くためにも幅広くアンケートを取るなどした方が良いのではないかと思います。	
6	検討する側に保護者や地域住民が加わることも必要だと考える。	
7	どのくらいの市民がこの多くの文字の方針を読み、どれだけ理解できたのだろうか…。今、小中学校に通う家庭、小規模学校またその地域の市民の意見はどうなのだろうと思いました。	
8	地域住民とも理解を得ながら進む、という姿勢は大切だと思いますが、他地域を見るにつけ「結論ありき」の会が開かれ、それが住民の意見を聞いたという既成事実になったという会が多いです。上田市が決してそのようなことにならないようにお願いいたします。	

5 教育分野をはじめとする各種施策に関する意見・要望

パブリックコメントを通して、教育分野をはじめとする各種施策に関する意見や要望を多数いただきました。意見等は次のとおりです。

- ・先日はコロナ感染者のために第二学校給食センターの給食提供ができなかったことがありました。適切な対応により感染が広がらなかった点は良かったと思います。ただ何千食も提供できなかった訳で自校給食やセンター規模を過大にしすぎないことで、給食がもっと提供できたと思います。授業中にいい香りがしてきてお昼が楽しみになったり、調理員に顔を見て「おいしかった」と伝えられることが児童生徒の健全な育成につながると思います。
- ・長野大学も上田市の公立になりました。秋田の大学を参考にして上田の子供たちを公立なので授業料を格安にして上田市の発展に、一時は他町村に出るかもしれないが上田市がそれなりの闊達な市になれば戻ってくる人もおおくなると思います。

- ・「国際バカロレア」のほかにも「イエナプラン教育」「シュタイナー教育など、関心を持って議論している親が上田市内も多数いる。小規模校の問題解決にはこれらの教育システムなどを研究し学校の特徴を出していくことも一つの方策。一人一人の子どもが自分に合った学習スタイルや学びの場を選択できることが重要。
- ・その場その場の教育的実験は許させるものではないが、「ITの正しい使い方」、「一人一人の子ども自らの学習カリキュラムの作成」、「学年を外した学習スタイル」、「国際的に通用する語学や表現力の育成」、「ICT導入で特色ある学校間での連携」などなど、モデル校を育成し、その成果を上田市全体として共有すべきだ。
- ・生活困窮の家庭や、新型コロナウイルス感染症により、新たに生活困窮に陥った家庭では、ネット環境の整備も困難です。そのような家庭のために、児童館や児童センター、または図書館等の公共施設のネット環境を整備し、それらの公共施設での学習が可能になる方策をお願いします。
- ・上田市で育った新卒者が上田市を離れてしまうことが大きい。上田市に定着する効果的な対策を立てないといけない。
- ・学童保育について、今の時代は放課後の子ども達の教育の場として位置づけられないものでしょうか。
- ・今後子どもたちだけでなく、社会全体が縮小していくことは避けられません。そのような中、持続可能な活力ある上田市にしていくためには、教育に力を入れることだと思っています。時間がかかるように思われますが、これが近道だと感じています。教育水準が上がれば良い人材が生まれるばかりでなく、良い人材が集まります。他市町村に先んじた取り組みには様々な障壁もあり、何より勇気がいることかと思いますが、この機会に『教育先進都市』への第一歩を踏み出していただきたい。
- ・小中学校において、子どもたちの学びを深めるためのアクティブラーニング型授業を推進していく。
- ・オンラインを使った複数校での合同授業や複数校での合同イベントを促進する。
- ・各スポーツクラブと連携して地域クラブチームをいくつも立ち上げ、学校の部活への負担を減らす。
- ・『教育先進都市』として動いていくのに、一番の障壁はおそらく財政面だと思います。しかし、5年後、10年後の先行投資と考えていただきたいです。注目されれば5年後には成果が現れます。人は（大人も子どもも）注目されると成長します。上田市が注目されれば市民の意識も変わってきますし、教育に関しては多くの市民が動いてくれるはずです。行政としての御英断を望みます。
- ・子育て世代に共感される施策によって、出生率や移住が増えるように努力していただきたいと思います。（たとえば自校給食、給食費の無償化等々）
- ・教育現場を励ます基本方針であってほしいです。